



文学部は50周年記念企画として公開シンポジウム「メディアの本分、ジャーナリズムの力」や展示会を開催した。学生や市民多数が訪れた。

# 公開シンポ「メディアの本分、ジャーナリズムの力」

## 岸井氏ら講演



左から司会の山田教授、発言する岸井、吉岡、浅田の各氏

7月23日、神田キャンパスで公開シンポジウム「メディアの本分、ジャーナリズムの力」が開催された。日本ペンクラブとの共催。TBSの特別コメンテーターを務める岸井成格毎日新聞特別編集委員らが、言論の自由とそれを支えるジャーナリズムの役割を議論。約300人が集まった。作家の浅田次郎日本ペ



講演する熊木教授

伊能忠敬(1745-1818)が足を運んで測った津々浦々を体感しよう。伊能が約200年前に作製した「大日本沿海輿地全図」の復元図(千葉県香取市伊能忠敬記念館所蔵)が8月

### 「大日本沿海輿地全図」復元図

伊能忠敬(1745-1818)が足を運んで測った津々浦々を体感しよう。伊能が約200年前に作製した「大日本沿海輿地全図」の復元図(千葉県香取市伊能忠敬記念館所蔵)が8月6、7の両日、生田キャンパスで展示され、約1000人が来場した。1面に写真。



熱心に地図を見る学生

千葉県佐原(現香取市)で醸造業などを営んでいた伊能は隠居後、50歳で天文学を学び、17年かけて全国約4万キロを歩いて初の実測による日本全図を完成、今日の日本地図の基礎となった。その偉業を伝えようと文学部環境地理学科が一般公開を企画した。

6日には公開シンポジウムが行われた。学生5人が発表した後、気仙沼市職員の菊田隆二さんが自身の体験をもとに来場者の質問に答える形で約1時間講演。社会調査実習を担当した嶋根克己、大矢根淳尚教授を交えてのディスカッションもあった。



講義を受けるグアテマラのリーダーたち



川崎市岡本太郎美術館にある「母の塔」の前で

# グアテマラの市長ら研修

## 生田 狐崎教授講義 学生と交流も

「日本の戦後発展は、グアテマラの手本になる」。国際協力機構(JICA)の日本研修事業で来日している中米グアテマラの市長ら地方行政のリーダーたちが、7月21日、生田キャンパスを訪れ、JICA農村開発支援委員などを務める狐崎知己経済学部教授(中南米の地域、経済)の講義など研修を受けた。

### 被災経験者の語り

#### 東日本、阪神を歩いた 学生たちの記録を展示

震災を風化してはならぬ。東日本大震災(2011年)と阪神・淡路大震災(1995年)の復興過程や現地の人々にインタビューした記録の展示会「被災経験者の語り」―大学生が歩いた被災地「東日本」と「阪神」の記憶が8月4日から6日までサテライトキャンパスで開催された。



公開シンポを前に打ち合わせをする学生たち(サテライトキャンパス)

6日には公開シンポジウムが行われた。学生5人が発表した後、気仙沼市職員の菊田隆二さんが自身の体験をもとに来場者の質問に答える形で約1時間講演。社会調査実習を担当した嶋根克己、大矢根淳尚教授を交えてのディスカッションもあった。

熊木洋太教授(地図学)は「距離と方角の測量を綿密に粘り強く繰り返した当時の日本の地形や地名がうつらうつらと、来場した高校生らは顔を地図に近づけて「故郷があった」と声をあげていた。熊木洋太教授(地図学)は「距離と方角の測量を綿密に粘り強く繰り返した当時の日本の地形や地名がうつらうつらと、来場した高校生らは顔を地図に近づけて「故郷があった」と声をあげていた。熊木洋太教授(地図学)は「距離と方角の測量を綿密に粘り強く繰り返した当時の日本の地形や地名がうつらうつらと、来場した高校生らは顔を地図に近づけて「故郷があった」と声をあげていた。」